

さんぽ



特集：山北で行う買い物支援のカタチ

さんぽくまちづくり通信が
リニューアルしました！

2018
12.15



地域のタカラ



少子高齢化が進む山北地区にとって、子どもたちは地域の宝！山北で子どもが産まれた話を聞くと、嬉しくなりますよね！

今回から、今年度産まれた山北地区在住のお子さんを紹介することで、地域の皆さんにハッピーな話題をお届けしていきます。

記念すべき第1号は、府屋駅前通の本間くるみちゃんです。



◇本間 くるみ ちゃん

◇女の子

◇府屋駅前通

◇平成 30年 10月 2日 生まれ

◇ご両親：本間準平さん・あゆみさん

予定日ぴったりに産まれてきてくれたというくるみちゃん。パッチリとした二重まぶたが印象的で、取材中、たくさんおしゃべりをしてくれました。

ご両親は、女の子だったらひらがなにしようと思っていたそうで、秋っぽいイメージ、音の響き、ママがミスターチルドレンの「くるみ」が好きなどの理由から名付けたとのこと。

元気よく遊び、誰とでも仲良くなれるような子に育ててほしいと願っているそうです。



産まれたばかりのくるみちゃん↑



お姉ちゃんのおんまふちゃんも
妹の誕生に「うらやま」↑

編集・発行
山北地区まちづくり協議会
(事務局)
〒999-0999
新潟県村上市府屋232番地
村上市山北支所内
電話：0254-771-111
FAX：0254-771-2117
メール：s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp

今回から「さんぽくまちづくり通信」は、「さんぽ」としてリニューアルしました。「さんぽ」は、「さんぽ」と「たのぼろ」を掛け合わせた造語で、「たのぼろの綿毛が飛びように話題が広がり、山北にまちづくりの花がたくさん咲きますように」という意味が込められています。



まちづくり通信がリニューアル！

山北の買い物物の現状と課題

「買い物」は、私たちが生活する上で欠かせません。日用品、食材、洋服、靴など、皆さん必ず買物をしていると思います。

しかし、山北においては、そういった物が買えるお店が近くにないという場合が大変多いです。そうなる、当然、お店までは車などで行く必要がありますが、高齢化が進む山北においては、運転免許証の返納などによる運転ができない人も多くいます。

このことは、家族や親戚の手助け、近所の住民同士の支えあいなどでカバーしていることが多く、これまで、あまり地域の課題として見えてこなかった部分かもしれません。

しかし、大毎集落で行われた住民アンケートでは、日常生活における困りごとという項目について、10代〜80代までの全ての世代で「買い物」が上位に入るという結果が出ました。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
1位	買い物	買い物	買い物 医療	買い物	農地山林	買い物	買い物	軽作業 買い物
2位	通学不便	医療 仕事・雇用	—	医療	買い物	農地山林	医療	—
3位	移動手段	—	子育て環境 仕事・雇用	進学・進路	仕事・雇用	医療	農地山林 金融機関	農地山林 移動手段
4位	気軽に集まる場	子育て環境	—	子育て環境 仕事・雇用	医療	金融機関	—	—
5位	学習環境	移動手段 気軽に集まる場	進学・進路	—	通学不便	災害への備え	移動手段	日常生活 医療

大毎集落のアンケート結果（日常生活における困りごと）

このようなアンケート結果を見ると、放ってはおけない地域の課題であることがわかると思えます。
これから先、さらに高齢化や人口減少が進むと、ますます買い物に困る人が増え、さらに大きな課題となっていくのではないのでしょうか？

課題解決のために

山北地区まちづくり協議会では、平成29年度から第2次山北地区まちづくり計画に基づき、地域の課題解決に向けた取り組みを開始しました。

この取り組みを進めるにあたって実施した協議会委員研修会の中で、大毎集落のアンケート結果も踏まえ、地域課題として買い物困難者の増加に注目し、地域パートナーズ部会を中心に「買い物困難者支援」に取り組むこととしました。

取り組みを始めるにあたっては、山北地区の買い物困難者支援をミッションとする地域おこし協力隊の川村悠樹さんと協力し、他のアンケート調査結果を参考に買い物困難者の実態やニーズを把握したり、集落での聞き取りを行ったり、さまざまな先進地の取り組みを視察するなどして、山北地区に合った買い物支援のカタチを探してきました。

その結果、山北では手に入りにくい物が買えて、山北と似たような地域でも多く実施されている「買い物ツアー」という方法が適しているのではないかと結論に至りました。

そこで、川村さんを中心に、NPO法人さんほくスポーツ協会、さんほく互近所ささえ隊、当協議会が協力して「買い物ツアー実行委員会」を立ち上げ、山北で初めての買い物ツアーを開催しました。



地域トピックス

11月14日から17日にかけて、明治大学農学部小田切ゼミナールの皆さんが、農村調査実習のため山北に滞在されました。小田切ゼミは、主に農山村などにおける地域づくりについて研究しており、平成18年からほぼ毎年、山北で調査実習を実施されています。

今回も地域の皆さんにご協力いただき、中継集落や大毎集落の取り組み、山北地区で活動する各種団体の取り組み、地域おこし協力隊の活動などを調査されました。



中継集落の公民館でヒアリング↑



大毎集落の「吉祥清水」を見学↑

今年は、実習最終日に学生の調査報告会も兼ねた「関係人口シンポジウム」を山北支所と共催し開催。「関係人口」とは、移住した「定住人口」や、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人たちとさまざまな形で関わる人々のことです。

小田切先生からは、「いきなり移住するのはハードルが高く、地域との関わりを深める「関わり」の段階が重要。」「都市部にはない体験ができる農山村は、関わり価値が高い。」などのお話がありました。

また、学生からは、「外部の人とのつながりを深めることで、地域の魅力を外に伝えてもらう可能性が広がる。」などの報告がありました。

今後の私たちの取り組みに活かすとともに、これからも小田切ゼミと山北の関わりを大切にしていきたいですね！



山北地区外からも多くの皆さんが参加↑